

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和五年四月度 入賞句一覧

投句数 七百十句

田中 青志 選



特選

春休み昨日来た子が今日帰る

東京都世田谷区 関戸 信治

春休み、昨日久しぶりに帰って来た子。もう今日帰るといふ。聞いてみると友達と約束があるといふ。親と友達、どつちが大事なの。子離れがまだ完全に出ていない親、それでも子たちはどんどん成長して、新しい世界になじまねばならない。子たちには子たちの暮らし、交際があるのだ。新しい社会で生きていくためには、家に帰って親に甘えていた時間はないのである。頼もしいこととはいえないが、淋しい思いである。まあ元気に気をつけてねというしかない。親の手を離れて大きく育っていく子たちよ。

さへづりや一途といふは美しく

安八郡輪之内町 野村 照子

鳥たちが囀るのは、己の縄張りを主張するためか、愛の主張である。その一途さには頭が下がるが、生きていくための手段なのである。その一途さは、人間社会にも通ずることであり、見習うべきことでもある。その激しさ、一途さは猫の恋などにもみとれるところ。その凄さは、美しいという評価のほかないと思うのも人間だからであろう。人間社会の恥も外聞もないところは、なんとも生々しいかぎりである。

瑠璃色の地球のかけら犬ふぐり

岐阜市 堀江 美州

瑠璃は宝石。いぬふぐりのあの瑠璃色が地球のかけらだという。俳句のわびさびから一転してポエムの世界へイメージを広げる一句。あの小さな犬ふぐりにそんな立派な言葉が冠してもいいのかと思わせる発想には、その域を脱してはいないとの説得力がある。それが俳句の詩の世界だと読み返しながら納得している次第。

秀逸

池覗く幼を映し水温む

大垣市 傍島 豊子

良薬の苦みしばらく春の雨

東京都新宿区 花澤 ちいこ

初桜静かな雨のひと日かな

大垣市 白井 秀子

人住まぬ家朽ちやすく草萌ゆる

大垣市 坪井 克枝

たかい高いをしてやれば春の雲

安八郡輪之内町 野村 照子

平凡は老いの幸せ春障子

不破郡垂井町 大羽 志風

お隣へお隣からの蓬餅

大垣市 田口 貞善

春は曙早出のみそ汁を呑む

愛知県岡崎市 渡邊 吟笑

つくしんぼ握る児の手をはみ出して

岐阜市 堀江 美州

入選

つくばひの水面瞬く養花天

本巢市

小泉 裕子

春の日を背中にためて畑仕事

不破郡垂井町

大羽 志風

春光や渡船場跡の常夜灯

不破郡垂井町

久保田 紘義

本町は一方通行春祭

岐阜市

亀山 京子

先生に先生付きぬ朝桜

揖斐郡池田町

林 弘

何も彼も「はい」とうなずく入学児

養老郡養老町

佐藤 咲楽

昭和生き平成生きて令和の春

大垣市

小倉 笑子

鶏を小屋に追込む日永かな

揖斐郡大野町

藤田 涼子

うぐいすや木地屋の多き隠れ里

三重県四日市市

井戸 康子

指先の触れ合う音や木の芽雨

静岡県富士市

磯野 昭仁

華嚴寺の奉納わらじ春の塵

揖斐郡大野町

横山 道男

末つ子の甘えん坊の卒業す

兵庫県神戸市

岸下 庄二

故郷や蝾も田螺も古き友

神奈川県川崎市

立野 音思

行く春や飾ったままの缶コーヒー

東京都調布市

瀬央 ありさ

子は親の希望に背き卒業す

三重県鈴鹿市

松井 政典

蕪村句集小脇に花菜畑かな

愛知県豊田市

城山 悠水

もういいかいもういいよとて木の芽吹く

大阪府東大阪市

森 佳月

凍返る鼻を真つ赤にしてケンカ

埼玉県さいたま市澤田

紫

銭に我ら教師も奏でけり

大垣市

彩刀 樹人

花筏漕いで名残の高瀬川

京都府宇治市

古根 洋子

選者吟

新緑や奮い立たせてゐる気力

青 志

一般の部

